

「松ヶ岡プロジェクト」の今後の事業について

1 当面進める事業

(1) 松ヶ岡を修復する

- ①平成25年度東京藝術大学の調査により、建物、庭園ともに建設当時（安政3年（1856））のままに良く残っており、他の文化財（黒田代官屋敷等）と比べても、保存すべき文化財であり、国の重要文化財を働きかけるべき文化財であることが分かり、文化財的価値が非常に高いことが明らかとなった。
- ②山崎家の歴史から、松ヶ岡は江戸時代後期における町人の台頭の象徴と見ることができる。
- ③松ヶ岡が修復され旧来の姿で保存していくことで、子どもたちが当時の建物に直接触れることができ、幕末から明治へと身分制度でも大きく移り変わる時代の中での山崎家の歴史を伝えることによって、「将来の人材育成プロジェクトを推進し、将来を担う子どもたちの人材育成の場とする」という基本理念に基づく活用を図ることができる。
- ④掛川市には「士農工商」のそれぞれについて、象徴的な遺産（士の掛川城、農の報徳社がある）を持つことになり、全国的にも特色あるまちづくりができる。

(2) 掛川銀行の建物を復元する

- ①掛川銀行は、地方の経済発展、特に茶をはじめとする地場の産業からの資金需要に応じるため、また、地方で官金を取り扱う銀行が必要であったこと、さらには、世界に茶産業を広めるため外国為替などの取引ができる銀行が必要となったことから設立された。創立当時の資本金30万円は、他の国立銀行をはるかにしのぐもので、当時の掛川人たちの経済力のすごさと、産業近代化への情熱の高さは、掛川市民にとって誇るべきものである。
- ②掛川市には、組合金融としての先駆けである掛川信用金庫があり、民間の市中金融として先駆的な掛川銀行があった。このように、わが国の金融制度の近代化への様相を典型的に表していると言える。このことは、山崎家が輩出した経済学者山崎覚次郎の功績の偉大さとともに伝えていくべきことである。
- ③掛川銀行の復元は、先人の近代化への想い、気概を示すものとして、「気概を承継する拠り所」とするものである。
- ④市民の生きがい、やりがい、夢と希望を与える場所として活用する。
- ⑤松ヶ岡を文化財として大切にするため、復元された掛川銀行においては、日本金融の礎としての歴史紹介や日本金融学会の初代理事会長だった山崎覚次郎博士の顕彰、質の高い高度な金融セミナーの開催、さらには、一年を通じたカリキュラムのある講座等々、様々に活用して松ヶ岡の維持管理費を賄うこととする。

(3) 募金活動

事業推進にあたっては寄附金を財源とするので、松ヶ岡プロジェクト推進委員会の募金活動プロジェクトチームを中心にして、募金活動を開始する。推進委員会では、委員の拡充、拡大を図るとともに、市民向けのPRイベント等を開催して、周知、広報活動を加速させ、活動を確実なものにする。

2 松ヶ岡プロジェクト推進委員会

これまでの保存活用検討委員会を母体として委員を拡充し、市民で構成する。
(柳澤伯夫委員長)

3 今後の計画

まずは修復計画等を策定し、修復と復元のための事業費と寄附目標額を定め、募金活動を進めていくとともに、修復及び復元並びに活用事業を展開していく。

年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
松ヶ岡修復	耐震診断・ 修復計画 立案	歴まち交付金 申請	実施設計	修復工事	修復工事	公開
掛川銀行 復元	調査・ 研究	基本計画 基本設計	実施設計	復元工事	復元工事	公開
整備委員会	整備委員会 発足					
文化財 指定		市指定文化財			静岡県指定 文化財	重要文化財 指定申請
募金活動						